

# 百日咳に注意しましょう！

百日咳（ひやくにちぜき）と診断される方が増えています。

百日咳は、百日咳菌（*Bordetella pertussis*）に感染して発症する呼吸器感染症で、特徴的な咳が長く続きます。

県内では、学童期の方を中心に多くの発生が見られますが、百日咳はどの年齢の方でも感染する可能性があります。1歳以下（とくに生後6か月未満）の乳児が感染すると重症化することもあります。

咳が出るときは、マスクを着用するなど咳エチケットを守りましょう。

また、咳が長引くときは早めに医療機関を受診しましょう。

## 感染経路は

咳やくしゃみなどによる飛沫感染、接触感染によって人から人に感染します。

感染力が強いため、家庭内や学校などで感染が広がってしまうことが多いです。

なお、百日咳に対する免疫を持っていない集団の中に1人の感染者がいた場合、16～21人に感染させてしまうと言われていています（インフルエンザは2～3人、おたふくかぜは11～14人）。

## 症状は

感染後7～10日の潜伏期を経て症状が現れます。

感染力がもっとも強いのは、発症早期（カタル期）です。百日咳の特徴的な咳が出る前になります。

### ① カタル期（約2週間）

・風邪症状に始まり、徐々に咳が激しくなります。

### ② 痙咳（けいがい）期（約2～3週間）

・短い咳が連続して起こり、息を吸うときに笛の音のようなヒューという音が出ます。

### ③ 回復期

・激しい咳は徐々に弱くなり、全経過約2～3か月で回復します。

## 治療法は

治療には、マクロライド系抗菌薬が有効とされています。発症早期（カタル期）に抗菌薬を服用すれば、症状の軽減と周囲への感染期間の短縮が期待できます。

## 予防のポイント

手洗いや咳エチケット（咳が出るときのマスク着用等）などの基本的な感染対策が大切です。

生後2か月以降は、定期接種としてワクチンの接種を受けることができます。予防接種を受けることで重症化を防ぐことができます。